



日立市コミュニティ推進協議会

自分たちの創意と工夫で 地域づくり

日立市コミュニティ推進協議会は、23のコミュニティ単会が取り組む共通の目標「基本方針」を掲げて、行政と連携・協働し、「自分たちの地域は、自分たちの創意と工夫で

つくる」という考え方によってまちづくりを進めています。地域特性やニーズを把握しながら、福祉、防災、防犯、環境、青少年育成、生涯学習など多彩な活動に取り組んでいます。

組織の強化で地域福祉の活動も

平成21年度からコミュニティ組織と地区社会福祉協議会の一体化によって、コミュニティ単会が地区社会福祉協議会の機能を有する組織となり、地域福祉活動が始まりました。単会によって事業を実施する組織の名称は様々ですが、地域住民のニーズに対応した特色ある活動が進められています。

少子・高齢社会や核家族化が進行



鴨志田会長交代のあいさつ

するなかで、地域課題の解決には地域の人たちが協力して取り組むことが必要になってきました。このためコミュニティ推進協議会は平成21年度も引き続き小委員会を設け、単会の組織強化のため、自治会・町内

会などの結成や加入促進、活動PRなどの方策を検討します。すでに自治会・町内会などの未組織地区への結成の働きかけや、地域に出向いての話し合いなどに取り組んでいる単会もあります。

また、各単会とも自主防災訓練が計画され、自警団活動や青色パトロールカーによる防犯活動、登下校時の子どもを守る活動なども積極的に行われています。

地域活動は自主、自発性が基本

コミュニティ推進協議会の活動の歴史は、30年を超えて長く、その活動の基本は、それぞれの単会が地域性を活かしながら、地域環境美化、青少年健全育成、交通安全、自主防災、防犯、地域福祉等、時代に合った活動を地域住民と、真に心通う人間関係をつくりながら、自主、自発的なものとして展開していることであります。

しかし、昨今は「向こう三軒両隣」的なふれあい、助け合い、話し合いの精神が希薄になり、コミュニティ

どもあり、日立市のコミュニティ活動のPRにも一役買っています。

ホームページ更新や新しい画面づくりの手法を学びたいという単会の希望に応じて、「ひたち生き生き百年塾」情報部会の支援で、単会の希望日に合わせた出前研修会を開催しています。

ぜひ、自分の単会ホームページを覗いてみてください。

活動を鈍化させる要因になりつつあります。私達は新たなまちづくりに、意欲と情熱を傾注させ、問題解決に積極的に取り組みます。



会長
柴田和彦

あなたの単会の活動に参加を

十王、田尻、諏訪、河原子、久慈、坂下の6単会の会長交代がありました。活動拠点は各交流センターです。学区・地区の活動へご参加ください。

学区・地区	会長	交流センターTEL
十王	沼田 明博	39-2411
豊浦	山田 孝志	43-5755
日高	志賀 勝弘	42-4050
田尻	鈴木 利治	42-1552
滑川	遠藤 進	22-1654
宮田	大内 十寸	27-6835
中里	石川 諒一	70-8005
仲町	古河 利孝	21-5564
中小路	矢部 敏晴	22-6483
助川	永井 久善	23-0955
会瀬	柴田 和彦	25-1577
成沢	黒澤 宣明	35-5587
油縄子	嶋崎 敏	38-7531
諏訪	澤田 貞英	33-3841
大久保	蛭田 保夫	34-0535
河原子	八幡 一	33-3746
塙山	西村 ミチ江	34-5404
大沼	大江日出雄	35-8329
金沢	鴨志田勝雄	36-3985
水木	高橋 幸隆	52-3225
大みか	川村 広	53-5211
久慈	須田 昭	52-0165
坂下	赤津 憲一	52-3155

ホームページの有効活用を!

平成19年度に23の全コミュニティ単会で開設した、特色あるホームページをご覧になりましたか? 「時間が無い」という悩みを抱えながらも、各単会の活動情報や地域の季節感を伝える楽しい情報などが掲載され、閲覧する人数も増えています。県外からの問い合わせや視察な

新たな公共交通 中里・諏訪・坂下コミュニティの取り組み

日立市は山側に住宅団地を有し、過疎地も存在するという都市環境の中で、利用者の減少による路線バスの減便や廃止を回避するとともに、超高齢社会を目前に「地域の足」

である公共交通の確保や維持の必要があります。現在、地域性がある中里・諏訪・坂下地区が将来の夢を託し、新たな公共交通に取り組んでいます。

本格運行が開始

中里助け合いタクシー「なかさと号」

昨年の10月1日から3か月にわたり実施した試行運行の結果、「便利になった生活の足が無くなるのは不安だ。ぜひ継続して欲しい」と言う多くの地域住民の声に支えられ、今年の6月30日まで延長し、試行運行が続けられました。日ごとに「なかさと号」の利用者も増加し、地域住民の足として定着してきました。

数回にわたる中里地域住民への説明会や臨時総会を開き、地域住民の同意を得て、「特定非営利活動法人助け合いなかさと」(NPO)を設立、7月1日から運行主体が市社会福祉協議会からNPO法人に移行し、本格運行が開始されました。

8人乗りワゴン車2台で、電話予約により利用者の家から中里地区内の目的地まで運行します。運行経費

は市が7割を限度に助成、3割は運賃を含め中里地域住民が負担します。



自由に行きたい所へ

石川諒一会長は「中里地区は過疎化が進み、将来への不安がいっぱい。安心して生活できる基盤を、今、創らなければならない。地域の皆さんの支援をいただき継続していきたい。課題は安定した利用者数の確保と休日の運行。夢は中里地区以外(日立駅、常陸太田駅)への運行拡大です。何がうれしいかって、利用者の笑顔が一番!」と話しています。

どう確保する? 将来の「地域の足」

<諏訪地区>

行政と地域と路線バス事業者の三者が協定を締結し、協働(パートナーシップ協定方式)によって、昨年の10月から12月まで「公共交通の維持・確保」と「利便性の向上」を目的として、諏訪地区内から6号国道へ1日6便循環する「ふるさと諏訪号」の試行運行を実施しました。

利用状況は1日あたり12.8人で当初の予想より低調でしたが、既存の路線バス(平和台霊園線)利用者は増加傾向にあり、公共交通に対する住民の意識が高まってきたものと思われます。



諏訪の公共交通委員会

3年目に入りすっかり定着!

<坂下地区>

乗り合いタクシー「みなみ号」の事業主体は、地域住民で構成する「坂下地区みなみ号運営委員会」です。



田園風景の中を走る

久慈日立南交流センターと大甕駅間の27停留所を経由して、片道約50分で1日4往復、10人乗りワゴン車を運行しています。

坂下地区の交通空白地帯を走っている「みなみ号」は、走るシンボル

カーと言っても過言ではないくらいに、運行経路周辺の住民の人たちに親しまれるようになってきました。利用者も年ごとに僅かずつ増える傾向になりつつあります。高齢者が年々増加する中で、この「みなみ号」は絶対に欠かすことの出来ない大切な「地域の足」となっています。

しかし、まだ走行エリア内の人のみの利用に留まっており、坂下地区全体に知名度を上げるための広報とともに、更に「利便性と安全」について地域住民への浸透の必要があります。運行に関するヒアリングの実施や、利用者増を図る施策の検討、走行エリア住民対象の交通行動のアンケート調査など、今後、取り組まなくてはならない課題があります。

今後、「ふれあい諏訪号」の試行運行結果の検証、運行後に実施したシンポジウムやアンケート結果を精査し、将来に向けて既存の路線バスである「日立駅から多賀駅経由の平和台霊園線」を含め、諏訪地区内の公共交通のあり方について総合的に検討しなければなりません。

平成21年度も地域・行政・路線バス事業者・学識経験者からなる「公共交通委員会」を推進母体とし、山側の高台にある団地や山間地の北の沢・太平田地区、鮎川沿い住民の意向を考慮して、既存路線を含めた地域内の運行ルート、車種、便数等の試行運行計画を策定し、今秋に3~6か月間の試行を実施する予定です。

きれいなまち 市民の努力が実を結ぶ

不法投棄のないまちに 監視員の地道な活動が続く

ごみの不法投棄は大きな社会問題になっていますが、日立市も例外ではなく、山林、原野、道路沿いなどの不法投棄は後を絶ちません。

日立市では不法投棄を未然に防止し、早期発見で適切に対応するため、各コミュニティ単会から推薦された総勢127名の不法投棄監視員が1



努力が無駄にならないように

年を通して活動しています。パトロールは学区単位で実施し、不法投棄されたごみの回収や清掃センターへの回収依頼を行っています。その物量は毎年数十トンにもなります。不法投棄をなくすことで、費用や監視員の労力を削減でき、自然環境を守ることもできます。ごみは決められたルールに従い適正に処理されなければなりません。

これからは、市民一人ひとりも監視員となり、不法投棄の無い美しいまちづくりに努めましょう。

のぼりを掲げ 落書き消し隊の出発式

最近、壁などの落書きを目にする機会が少しずつ減っているような気がしませんか？

それは、地域の皆さんが目を光らせ、地区ごとに協力し、落書きを消す作業を行っているからです。こうした努力が実を結び、日立市が少しずつ変わってきています。

7月に開催された「ひたち環境都市フェスタ」では、落書き消し隊の



出発式も行われました。環境部門コミュニティ推進者のつどい実行委員長の大江日出雄さんの掛け声と共に、23の各コミュニティ代表者が「落書き消し隊」ののぼり旗を掲げました。「自分たちの手できれいな日立市を！」そんな意気込みが感じられる出発式でした。

小さな“エコ”の取り組み

各交流センターで 廃食用油の回収開始

市内の全交流センター（23か所）で6月1日から始まった、一般家庭からの使用済みてんぷら油などの廃食用油の回収が順調に進んでいます。

公共施設等も含め回収された油からバイオディーゼル燃料（BDF）を精製し、公用車（機械車2台、2

トラック6台、マイクロバス1台など）での活用を予定しています。使用することでごみの減量・資源化を推進し、二酸化炭素の削減、環境負荷低減を行っていきます。



循環型社会形成推進 菜の花エコネットワーク

久慈川河川敷の一部を有効活用して、市民・民間事業者・市が協働で菜の花を栽培し、菜の花から菜種を採取します。

菜種油を精製して最終的にはバイオディーゼル燃料として利用する予定で推進会を設立、今後菜の花の種まき、畑の維持管理など準備が進み、来年の春には一面菜の花畑が広がり環境にもやさしい花見が楽しみです。

〔担当課からひとこと〕

使用済みの食用油を燃料として再利用することにより、炭素排出量が抑制されるとともに、ごみの減量化が推進されます。各交流センターからの廃食用油収集量は、7月末で約1,300ℓとなりました。ごみの減量化、資源化をとおして、地球環境にやさしいエコなライフスタイルにこれからも御協力をお願いします。

環境衛生課ごみ対策推進室



スポーツや趣味など、自分が興味のあることに取り組むことは、人を元気にさせます。

私たち、日立市民ひとり一芸チャレンジ運動推進協議会では、皆様が持っている「何かを始めたい気持ち」を応援します。

お近くの交流センターにおいてある「チャレンジガイドブック」や協議会のホームページをご覧ください。

電話でのお問い合わせもお待ちしております。

【お問い合わせ】

日立市民ひとり一芸

チャレンジ運動推進協議会

(日立市教育委員会生涯学習課内)

TEL 0294-23-9150

ホームページURL

<http://www.cnet-hitachi.com/ichigei/>



単会リレー訪問 特色ある活動を紹介(V)

日立市には概ね小学校区をエリアに活動している23のコミュニティ単会があります。それぞれの単会では地域福祉、防犯・防災、青少年育成、子育て支援、環境、生涯学

習などをテーマに、多くの住民と一緒に地域の特色を活かし、まちづくりを続けています。今回は田尻学区コミュニティ推進会と大沼学区コミュニティ推進会を紹介します。

世代間の融和で まちづくりを

大沼学区コミュニティ推進会

大沼交流センターを訪ね、会長の大江日出雄さんと総務部長の藺部三吉さんに話を聞きました。

大沼学区は「心豊かな住みよいまちづくり」を目標に、熟年・女性・若い世代がそれぞれの役割を担いながら、まちづくりを進めています。

それを象徴するイベントが、今年で26回を迎えた手づくりの「大沼まつり」です。5月に実行委員会を立ち上げ、熟年者を中心にイベントキャラクターの製作に取り掛かりました。今年は新たに「花咲か爺さん」が加わりました。さらに、女性、若い世代の様々なグループも準備に入



初登場の花咲か爺さん

りました。当日はパレード、演技披露、模擬店、盆踊り、大抽選会など、孫世代から熟年までみんなで夏を楽しみました。

世代間融合を願っても、住民の高齢化は大沼学区でも避けられないことです。このため福祉と生涯学習の充実が重要なポイントです。地区社協とコミュニティ推進会福祉部が統合して「敬老会・ふくしのつどい」等のイベントを開催し、民生委員と

力を合わせ「見守り、声かけ」、さらに「安心安全ネットワーク構築」等を通じて福祉増進を図っています。

また、生涯学習部と「大沼大学」の約20回におよぶセミナーや、体育部による体力増進プログラムを企画運営して生涯学習を進めています。

大沼学区コミュニティ推進会は10区の地域から選ばれている役員と、9部門の専門部によって構成

されています。その活動は、各地域幹事と専門部員の労によるところが大です。学区自主防災会や婦人防火クラブによるパトロール、環境美化部と住民による河川清掃や空き缶回収など、活動は多岐にわたっています。

大江会長はこれからも活動が継続するよう若い世代に伝承し組織を強固にしていきたいと話していました。

お年寄りパワーで 元気に活動

田尻学区コミュニティ推進会

広場でクロッケーを楽しむお年寄りの歓声が絶えない田尻交流センターを訪ね、会長の鈴木利治さんと副会長の太森健一さんに話を聞きました。

田尻学区は、十王地区に次いで多い1万3千人の人口を擁していますが、ほとんどが新興住宅地区のうえ、公営の集合住宅や民間アパートが多く、コミュニティ活動に対する関心が薄くなりがちな地域だそうです。

長年続けてきた「市民体育祭」は、3年前に「レクと健康の集い」と名称を変えましたが、今でも支部対抗種目を基本とし、支部内の人々が集まりともに活動することによって、薄れがちな地域内の人々の結束を図るために、大切にしているイベントです。

田尻学区の特徴は、お年寄りパワーが生き生きと活動している点にあるようです。「教養大学」では、講演会や野外活動などを行っています



あやとりできたかな?

が、地域の老人会が協力して、毎回80人以上の高齢者が元気に参加しています。

小学校の総合学習支援や幼稚園児とのふれあい活動にも、野菜の苗植え指導や昔語りなど自分の得意技を發揮して、多くのお年寄りが進んで参加しています。地区社会福祉協議会が行うお年寄りの憩いの場所づくり「ふれあいサロン」は、現在の4か所からさらに増やして、各地域の集会所ごとに開催できるようにしました。老人会や子ども会、コミュニティの「健康づくり推進部」や「文化芸能推進部」などが連携しあうサロンとし、地域ぐるみでお年寄りとともに暮らすまちづくりを進めていきたいとのことでした。